
新社名と人材育成

昨年10月、漸く我が社の技報第1号を発刊し、引き続きここに第2号も発刊することができた。技術革新の時代、おくれればせながら、我が社もやっとここまでこられたとの感を深くし、喜びにたえない。

当社もこの4月1日を期して、創立以来親してできた“株式会社愛知電機工作所”から“愛知電機株式会社”に社名を変更することになった。近年、多くの企業で、伝統的な製品からは想像もできない業務を取扱う多様化・多角化がみられ、業務内容の充実にもなって、社名の変更が行われている。当社も創立の昭和17年から、戦後の復興期、高度成長期にかけて、物資不足や資源小国日本という意識が心の底に根強くあった時代には、再生・修理の響きの強い“工作所”なる言葉も、時代と業容を反映したものであったが、それらが大きく変化し発展した今日では、時代にそぐわぬものとなった。ここで“工作所”なる言葉を取り去り、企業のイメージチェンジをはかるとともに技術開発を強く推進し、今日的新技術を付加した業務に拡大して、名実ともに日本に於ける電気機器製造業の一翼を担う企業へと生まれ変わる転機にしようとするものである。

すさまじい技術革新に対処し、このなかで生きのこるためには、ますます多くの技術知識の集積と自己研さんによる技術開発こそが会社の新しい発展の原動力であり、まさしくその運命を決するものである。そしてこれらの開発技術の成果が、この技報にも次々に盛られることになれば、当社の将来も明るい展望が持てるものになる。このことを心から希ってやまない。

今日のような高レベルの技術社会において、広範な分野の技術開発を同時に手掛けることは、我が社の現在の実力では至難の業である。したがってまず第一に、当社在来の商品と技術の周辺、またはその延長上の分野を中心として、これに今日の先端技術を加味した、いわゆる複合技術による新商品開発を指向し、そして少なくともこの分野に於ける技術と新商品開発においては人後に落ちないよう、しかもこれを永続させねばならない。もしこれによってさえ成功が得られなければ、他の分野で他社に優ることは到底不可能と思われる。他社の成功例の多くが、自社の従来商品や従来技術の周辺の究明によるものであるように、我々も従来商品と従来技術を中心として、それをより深く、より広く究明することが成功への捷徑であろう。そしてこの分野において、顧客のニーズに副った魅力ある、しかも価格競争力を有

専務取締役 佐野 鳩



する商品開発をやりとげ、同時にここで品質保証体制の再整備をも行い、品質的にも顧客の絶対的な信頼を築きあげること、これが会社発展の先づ基本である。このためには、狙いを再確認し、それへの集中的な研究開発投資も是非とも必要である。思い付き的な、短期的な研究では到底今日の高度技術を駆使した新商品は生れない。本業を基盤にしながらか数歩先をみて新技術を取込み本業の周辺を拡大していきたい。

第二には社内全般の技術レベルの向上が極めて急務である。今日のように、従来技術基盤から、他の先端技術基盤への急激な移行の大激動期に、他におくれをとることなく、商品開発を進めるために、特にその先端技術基盤の中核をなす電子技術を中心とした、新しい技術知識の修得と蓄積へのなお一層の努力とあわせて、視野の拡大、洞察力、構想力、創造力などが強く要求される。

昨今社内に多くの自主的グループによる特に電子技術に関する勉強会が催され、その技術力向上の不断の努力がなされている。また、日常の直接的課題を中心として、大学のご協力により先生方を講師としての受講、ディスカッションも見受けられる。これらの努力は現在業務遂行に大きな成果をもたらしているが、今後も更にこれらの勉強会グループが数多く編成され、より多くの人に参加できるようになることを切に望むものである。一方、社外に於ける技術修得の場として、従来から、公共施設、学校等への留学生、聴講生の派遣も行われてきたが、今後はその内容の吟味と合せ、更に強化の方向に進みたい。なお多様化する市場に応える方法として、異業種企業との交流・連携による技術力の補完や官公庁のご指導による公共施設の活用などにも更に注力が必要であろう。

要は、従来行われてきた技術向上の諸施策を全面的に見直し、前進的強化を行い、激しい技術進歩に応ずることが急務であり、なかんづく先端技術の中核をなす電子技術と無縁な電機商品の開発と生産はあり得ない。とすれば更に、数多くのこの関係の技術者を必要とすることは必須である。したがってここで、そのための抜本的な人材育成に踏みきる事こそ急務であると言わなければなるまい。数年後これが実り始めれば極めて有力な戦力となることは明らかである。“企業は人なり”の言があるように、その成否は人に在る。時代の要請する技術者育成の再検討とその具体的な行動の緊急性を強調し将来に資したい。